

F★グループ  
ジョイント リサイタル

*group  
joint recital*

1964年1月20日(月)pm. 6:30  
神奈川県立音楽堂

## 親心を示した企画 / 野 村 光 一 ■

いよいよフェリス短大卒業生の演奏会がこれから継続的に催されるという。

このことは、一つには、学校の指導よろしきを得て、立派な実がたくさん生ってきたことを意味するのだ。もう一つには、生った実を、生らした人が最後迄大いに面倒を見ようという親心のいつくしみを現わすことになる。これは、結局学校自体の優れた成長をも意味することになるのではないかろうか。慶賀の至りに堪えない。どうか良い企画がいつまでも続くよう切望する。

## 三 宅 洋 一 郎 ■

フェリス短大音楽科の卒業生が集って、今晚こうした演奏会を開く運びになったのは、本当に嬉しいことです。この演奏会がこれから先も順順に受け継がれて、いつまでも続くように願っています。

音楽の勉強の道程が長いことは言うまでもありませんが、社会との結びつきがなければ意味のないものとなります。

幸いにして今晚演奏する機会を得られた方たちの今後一層の御努力を祈ると同時に、聴衆と関係者の皆さん方の暖かい御支援と御協力を心から感謝申しあげます。

曲目解説★坂元恵子／平井優子／岩谷紀子 (fグループ音楽学研究部)



## 岸川 史枝

昭和36年フェリス女学院短大音楽科卒業、37年同専攻科卒業。山岡寿美子氏、山岡優子氏、三宅洋一郎氏に師事。現在山手音楽教室講師。

# PIANO

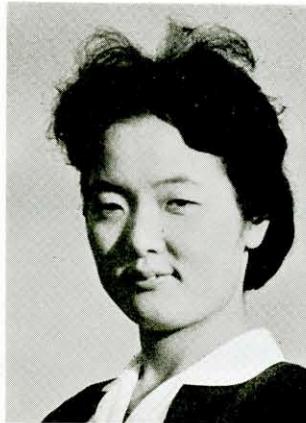
ショパン.....

1. 舟歌 嬰ヘ長調 作品60
2. スケルツォ 変口短調 作品31

〈舟歌 嬰ヘ長調 作品60〉 ピアノの詩人ショパン（1810～49）は生涯にいろいろの形式の曲を数多く作っているが、舟歌は1845～46年にかけて作曲されたこの曲ただ一つである。もともとベニスのゴンドラを漕ぐ時に歌われた舟歌は音拍子のリズムに旋律がゆったりと乗せられて行くのだが、ショパンはこの曲を音拍子として旋律の流れをさらに流暢にしている。前奏が3小節進み半小節の休みのうち、この曲全体を支配している舟歌のリズムが左手で奏される。その後2小節後こまかい装飾やトリラが盛込まれた和声的な主題の旋律が右手にあらわれてくる。中間部で曲はイ長調に転じ、それまでとことなった伴奏型が顔を出すが、メノ・モソソの部分を経過してから再びはじめの舟歌の伴奏が今度はオクターブで印象的に弾かれカンタービレの主題が最後をかざる。この舟歌は規模が大きく雄大であると同時に演奏技術の上からも難曲のうちに数えられている名曲である。

〈スケルツォ 変口短調 作品31〉 スケルツォの名はバッハの時代にまれに見られたが音楽形式として発達したのはベートーベンの頃からで、次第に姿を消していったメヌエットに代りソナタや交響曲の多楽章の曲の一部に使われるようになつた。スケルツォとは本来その言葉の意味する「冗談」とか「諧謔的」な内容を持っていたがショパンの曲はいずれも諧謔性からはなれ独特のものとなっている。ショパンやメンデルスゾーンはこの形式を独立させピアノ曲や管絃楽曲に用いている。今夜演奏されるのは四曲のスケルツォのうち最も有名な第二番である。曲はショパン自身問い合わせと答と説明している印象的な第一主題で始まり優美な第二主題からイ長調のトリオ＝インテルメッソが展開部の前に挿入され、主部の再現のうちコーダで情熱的に終る。

（平井優子）



岡崎光子

昭和35年フェリス女学院短大音楽科卒業、36年同専攻科卒業。岡見温彦氏、鳥井ツナ氏、久保田良作氏に師事。昭和35年読売新人演奏会に出演。現在山手音楽教室講師。

# VIOLIN

メンデルスゾーン……………

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

第1楽章 アレグロ・モルト・アバッショナート

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 アレグロ・ノン・トゥロッポ

ピアノ伴奏 / 村崎由紀子

〈ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64〉 短い生涯ではあったが初期ロマン派の音楽家の中でメンデルスゾーン（1809～47）ほど、めぐまれた家庭に育ち、めぐまれた音楽教育を受けた音楽家はいなかった。17才ではやくも天分を發揮し、傑作「真夏の夜の夢」序曲を作曲したのを始め、数多くのすぐれた作品を生みだした。中でも死の三年前にヴァイオリン協奏曲の珠玉ともいるべきホ短調の曲を完成した。近年ニ短調の曲が発見されたのでメンデルスゾーンは生涯に三曲のヴァイオリン協奏曲を作曲したことになる。

古典時代の均整と格調をもち憂愁を含んだ旋律は色彩と和声にいろどられ、まさにロマン主義の抒情そのもので、聴く人の心に透き徹るような美しさが浸みわたるのを感じさせる。ソナタ形式の第一楽章、三部形式の第二楽章、再びソナタ形式をもちいた第三楽章は短い導入部をはさんで切れ目なく続けられ、全曲にメンデルスゾーンの幸福な生活から湧きいでた明るいのびやかな旋律がよどみなく流れている。

（平井優子）



## 高梨美知子

昭和35年フェリス女学院短大音楽科卒業、36年専攻科卒業。ベルトラメリ能子氏、木下保氏、渡辺高之助氏、リア・フォン・ヘッサート氏に師事。二期会研究生卒業公演でオペラ「マルタ」のナンシー役で出演、昭和38年12月「新進声楽家のタベ」に出演。現在二期会準会員。

# MEZZO SOPRANO

ブルームス.....

1. 愛の歌
2. 我が恋は緑
3. セレナード
4. 永遠の愛

ヴェルディ.....

マスネー / 歌劇 『ウェルテル』(原作ゲーテ) より

シャルロッテのアリア

“ウェルテルよ、だれが言えましょうか”

ピアノ / 井上直幸

〈愛の歌〉 いとしき妻よ、あなたが森を散歩する時、小鳥の歌は、いっそう美しく響き、あなたの指が五月の花を摘む時、野や谷の花は、いっそう赤く咲きかえる。あなたなしでは、すべてが死だ、花は凋み、夕映えさえも佗しい、妻よ、決して去らないでおくれ、私の心に野と同じ幸福の花が歓喜に満ちて、咲くように。

〈わが恋は緑〉 わが恋は緑崩ゆるリラの樹、リラの樹を育み、欣びの色添うる光こそ君なれ、魂は、うぐいすのように舞い、リラの香に酔いては、欣びの調べをぞ、高らかに、うたえる。

〈セレナード〉 月は嶺にかかり、噴水の音のみ響く静けさ、恋するものを誘う、窓辺に三人の若者来たりて樂を奏でる、調べは美しき人の夢に忍び入る。彼女はブロンドの恋人を夢見、“私を忘れないで”とつぶやく。

〈永遠の愛〉 野も森も闇に沈み、あたりに夜が訪れる。若者は乙女を家へ送る路に、柳の茂みを過ぎつつ思いのだけを語る。“人のそしりを気にかけるなら、あの時すぐ結ばれたように今すぐ別れてしまおう”乙女、答えて言う、“二人の愛は鋼鉄より堅く、二人の愛は崩れません、愛はとこしえに、決してほろびることはないのです”。

〈ウェルテル〉 (“から”まではウェルテルの手紙) ウェルテル、ウェルテル。私の心をウェルテルがひとりじめしている、そのことを誰にいえましょう？この破り捨てなければならない手紙を、私はくり返し読む。“12日の灰色の空の下の、この小さな部屋に、僕は一人ぼっち…”ああ、彼のそばには誰もいない！。“窓の下で子供達の声がする！あなたの愛しい子供達が、あのときあなたを取り囲んでいた。子供達は僕を忘れてしまったでしょうに”いいえ、ウェルテル、どうして子供達があなたを忘れましょう。でも、あなたは戻っていらっしゃるのでしょうか？…ああこの最後の手紙！。“たとえ約束の日に僕があなたの前に現われなかつたとしても、どうか僕を責めないで、僕のために泣いて！おおシャルロッテあなたは震えるでしょう…！”あなたは震えるでしょう。

(岩谷紀子)



## 小泉俊子

昭和33年フェリス女学院短大音楽科卒業、34年同専攻科卒業。長谷川由利恵氏、内藤ゆり氏、手塚敏子氏に師事。神奈川県新人演奏会に出演。現在山手音楽教室講師。

# PIANO

プーランク……………

フランス組曲

ドビュッシー……………

雨の庭

〈フランス組曲〉 第一次世界大戦後、当時青年だった六人の音楽家が集まって「六人組」と称するグループを作った。彼等の音楽の方向はそれぞれ異っていたし、思考もまちまちであったが、このグループの活動は新鮮で、彼等によってフランス現代音楽が力強く推進されたといつても過言ではない。このグループの一人、プーランクは諧謔にあふれた本能と鋭い感受性に恵まれ、宗教的作品をいくつか書くほどの禁欲な一面と、野放図で軽快な一面との両極にわたって秀れた音楽を作っているが、彼の得意とするピアノ小品では、フランス音楽に伝統的な軽いサロン風な味わいと、クープラン、ラモーの世界の近代化を表わしている。

1935年に作られたフランス組曲はそういう点からも彼のピアノ作品中の逸品といえよう。この組曲に使われている旋律はフランス16世紀の舞曲家ジェルヴェーズによるもので、その素朴 平易な旋律の随所に気の利いたハーモニーがつけられて新鮮味を加えている。この曲は後にプーランク自身の手によって小管楽曲に編曲された。

〈雨の庭〉 ドビュッシーの音楽はワグナーや同じフランスのそれまでの作曲家のとははっきり違う響きをもっている。それはワグナーで極限にきた機能和声に新しい可能性の領域を拓げ、それまでは使ってはいけなかった音の動きや、全音音階、中世旋法を使い、それがドビュッシーのもつ独特な音感覚で融合されて印象派といわれるあのフランスらしい繊細微妙な音の世界がひらけたのである。

「雨の庭」は1903年に作曲されたピアノ曲集「版画」(塔・グラナダの夜・雨の庭)の一曲で、ドビュッシーの個性がピアノ作品に表われた最初の作品である。ここには微妙な音感覚と描写的な表現の結びつきの上に、リストの「エステ荘の噴水」にみられるようなピアノ技巧を用いてパリの木立に降りそそぐ雨にけぶる公園の情景が描きだされている。

(坂元恵子)



清瀬千鶴子

昭和31年フェリス女学院短大音楽科卒業。平原寿恵子氏、倉長治子氏、福沢アクリヴィ氏、三宅春恵氏に師事。昭和31年第25回毎日音楽コンクール入選。昭和38年藤原歌劇団に入団、「修道女アンジェリカ」等に出演。

# SOPRANO

ドビュッシー……………

1. 美しき夕暮

2. 来たよ春が

3. 「忘れられし小唄」より 水彩画一縦

プーランク……………

1. アラゴンの詩による「2つの詩」より “C”

2. ヴィルモランの詩による「笑いのための婚約」より

a) 飛んでいきます

b) ヴィオロン

ビゼー……………

歌劇「真珠採り」(第2幕)より いつかのような暗い夜に

ピアノ / 井上直幸

〈美しき夕暮〉 夕日は映えて、川は美しく、そよ風は麦畑を渡る。ものはみな幸に恵まれて、夕暮美しき間に、この世の喜びを受け、求めゆけよと示せり、流れは海へゆくごと、われら墓に向いて。

〈来たよ春が〉 来たよ春が、四月の子が、緑色の胴着をつけて、陽気に踊りくるい、森の小径をゆく、左の肩にや鶯を、右の肩にや鶴を止らせ、愛されぬ人のため、鶴は口笛を吹き、愛にひたる恋人のため、鶯は優しく歌う。

〈水彩画——縦〉 君に捧げよう、花、枝、葉と木の実、そして、あこがれに波打つこの心を——君の指で引きさかないでおくれ。

つめたい朝、露にぬれて、私は来る。君のそばに憩い、よき時を夢みる、くちづけの音にわななく頭、君の胸に憩わせておくれ、甘き嵐すぎ、君は、まどろみ、私も憩う。

〈アラゴンの詩による曲〉 ぼくは渡った、セーの橋、すべてが、そこで始った。傷ついた騎士の歌、バラの歌、城の歌、白鳥の歌、草原の歌、そして僕は飲んだ、ゆがめられた栄光の長い詩節を、ロワールは色々な思いを運び去る。おゝ、捨てられた、ぼくのフランス、セーの橋、その橋を、ぼくは渡った。

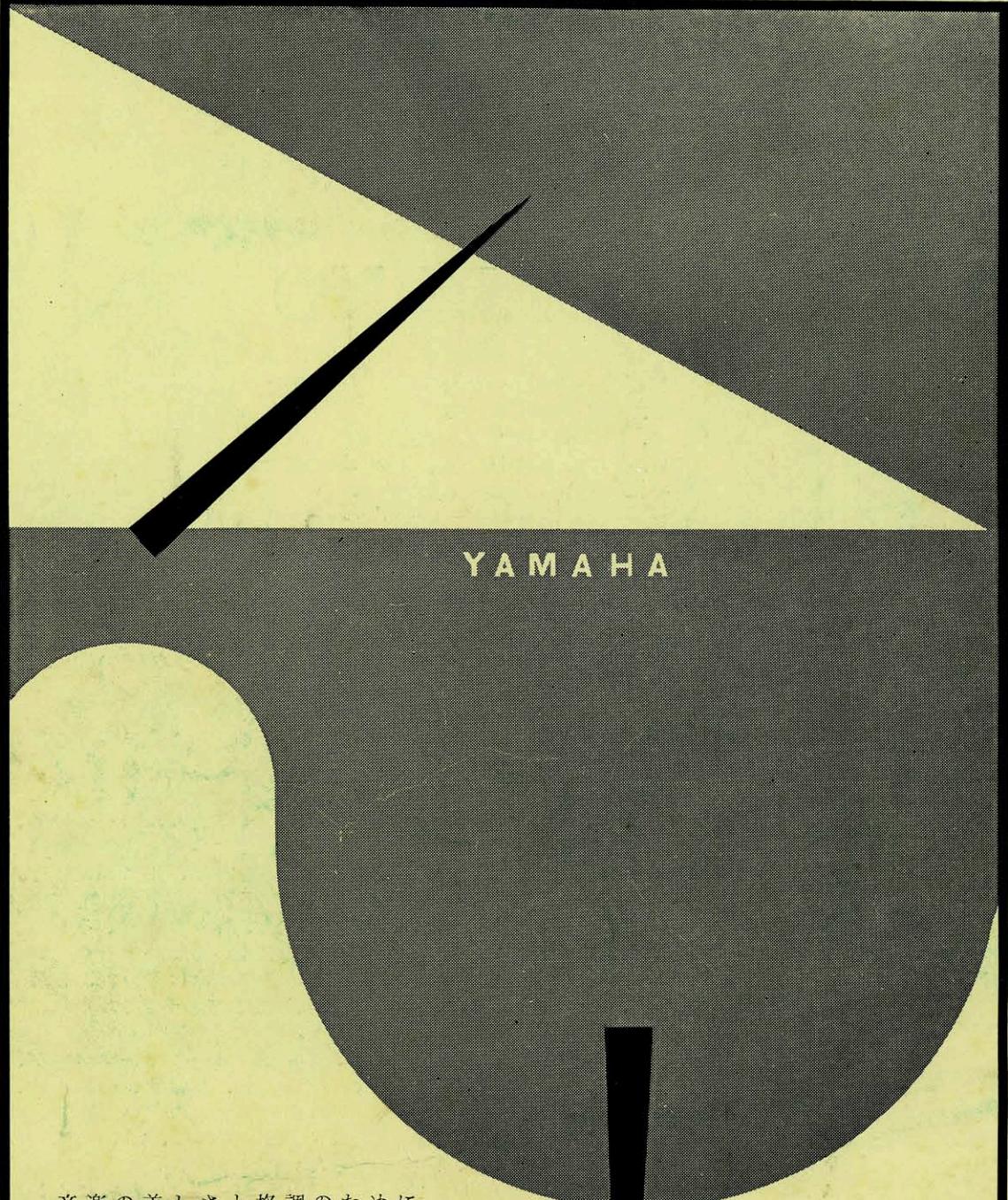
〈飛んで行きます〉 鶴めが飛んで行きます。私の鍔を嘴にくわえ、恋人が盗んで行きます、私の心を、おゝ、幸福はどこに？ 私は泣きます。娘心を奪って私の理性をかきみだす浮気の恋人、私の泥棒、私のもとに飛んできてくれる。

〈ヴィオロン〉 知られない調べを持った恋仲の二人、ヴィオロン奏する人、私は好きだ、不安の弦に張られた、嘆きの調べ、この調べに乗って、知られない木の実のように愛にその身を捧げる。

〈いつかのような暗い夜に〉 荒れ果てし所、怖れにふるえ、たゞ独り、こゝに、君が気配をおぼえぬ。おぐらき、すぎし夜、君、眠りもやらず、我をみまもりぬ。我やすらかなりき。またも君は来たる。あゝ、うれし、思うは、かの日よ、君ありて、やすらげく、すごせし夜よ。

(岩谷紀子)

(プーランクの歌詞訳については橋本一明氏の御教示をいただきました)



YAMAHA

音楽の美しさと格調のために

# ヤマハピアノ



日本 楽器 製造 株式 会社

横浜店 (横浜駅西口相鉄文化会館内)

TEL (44) 7545~8